



安井会長

京都代協(安井義幸会長)は1月24日午後4時から、京都市下京区のザロイヤルパークホテル京都梅小路で、会員ら約60名参加のもと、新春セミナーと懇親会を開催した。セミナーでは、朝日新聞経済部記者で「損保の闇 生保の裏」(朝日新書)の著者である柴田秀並氏が講演を行った。冒頭、安井会長が、「講師の柴田さんとは、昨年6月にFacebookを通じて交流が始まった。私の相談から柴田さんにアメリットフリートについて記事にしてもらい、その記事で金融庁保険課長に会って説明したところ、3か月後に規定集が変わったという経験をした。金融庁も動いてくれるというのだ。業界をより良くするため、少しでも私たちがお

「損保の闇 生保の裏」柴田氏が講演



セミナーのもよう

京都代協 新春セミナー
・懇親会を開催

お客様のために仕事に取り組めるような労働、募集環境にしていくのを、マスコミの方や議員の先生たち等周囲の方々のお力を借りながら、皆さんと一緒に知恵を出し合っ

「やっつけていきたい」と挨拶した。

セミナーでは、柴田氏がビッグモーター問題を皮切りに保険業界で発生したさまざまな問題、課題について、本出版(24年5月)後の金融庁や保険会社等の動きを織り交ぜながらここでしか聞けない情報を詳細に伝えた。



柴田氏

ビッグモーター問題以降も保険業界における昭和的、現代では違和感のある数々の慣行が明らかに。明らかならなっておられる。金融庁も、数年前の段階から「コンプライアンス・リスク管理に関する検査・監督の考え方」と進め方(コンプライアンス・リスク管理基本方針)において、「コンタクト・リスク」について、「法令として規律が整備されていないもの、①社会規範に悖る行為、②商慣習や市場慣行に反する行為、③利用者の視点の欠如した行為等」について、結果として企業価値が大きく毀損される場合が少なくない」と明言しており、業界にまつわる課題の多くはこのことが根底にあるのではないかと指摘するなど、多くの示唆に富む講演を行った。

最後に、「保険について厳しいことを書いたりしているのによく保険嫌いだと勘違いされます。好きで大事だからこれはあきらかに良くないだろうと感じています。保険は言うまでもなく公共性が高いもので、そのため数々の優遇措置も取られている。保険会社さん、代理店さんにも社会的な役割を果たす責務がある」と思っています。だからこそ、それを持続的に可能とする適正な対価、評価、制度とかが必要なのではないかと思っております。今後も業界について寸度なく追求していきたい」と述べた。

休憩を挟み行われた懇親会では安井会長の挨拶に続いて、日本代協の24年度コンベンションで功労者として表彰された辻本完治氏が登壇し、挨拶。本完治氏は、「このままの辻本氏は、保険会社の人とはより、仲間からたくさん情報をいただけたからです。代協の催しには必ず参加して情報を得ないともったいない。お客さまを守り続けるため、保険の健全な普及をしていくため、もっと情報交換をしよう」と呼びかけた。

歓談に移り、北神圭朗衆議院議員、竹内譲衆議院議員が駆け付け、参加者にエールを送った。